



患者さんに安心を届けるために

副病院長 企画・診療担当 門脇 則光



10月1日付で副病院長(企画・診療担当)を拝命した血液・免疫・呼吸器内科の門脇です。業務の多くは医療安全に関わることで、医療安全管理責任者、医療安全管理部長を兼任しています。任務を始めるに当たり、ご挨拶申し上げます。

病院のスタッフは皆患者さんのために日夜一生懸命働いています。しかし、そうした中でも、点滴の管が詰まったり患者さんが転倒したりといったアクシデントをゼロにすることが残念ながら困難です。こうした問題は個々人の注意で防げるものと思われがちでしたが、多くの場合、手順が複雑、ベッドの高さが不適切といったアクシデントを誘発しやすい状況に原因があり、したがってこ

うした問題が起こりにくいように医療現場のしくみを改善することが最重要であると今や認識されています。このような考え方は、報道に上るほどの医療事故をきっかけに、国の施策によって強く推し進められています。そのような動きを院内で先導するのが医療安全管理部です。私たちは一見ささいな出来事もできる限り吸い上げ、問題の原因を分析し、病院のスタッフに広く知らせ、さらに日本中の大学病院などと知恵を出し合っ、どうしたら患者さんに害が及ぶことが避けられるのかを日夜考え続けています。そして、大事なことは、医療スタッフのひとりひとりが、「患者さんを癒す」前に「患者さんに害を及ぼしてはならない」という、一見後ろ向きで当然と思われがちですが、実は最も基本的な病院の責務を絶えず心に刻み込むことです。これがあって初めてすべての医療行為が成り立つといっても過言ではありません。

患者さんが大船に乗った気持ちで医療を受けられるよう、院内外の皆さんと協力して、香川大学病院の安全なしくみをさらに充実させるべく邁進する所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

就任のご挨拶

副病院長 教育・研究担当 横井 英人



この度、副病院長(教育・研究担当)を拝命いたしました横井英人と申します。これまで、本務である医療情報部門と、臨床研究支援センターなど研究支援に関する業務に従事して参りました。今後、薬剤などの臨床研究に関しては、その倫理審査を行うこととなります。善意で参加して下さっている患者さん達に不具合が起きないように、適正に研究が行われるように見守って参りたいと思います。当院は電子カルテのデータベースを用いた臨床研究については、日本でも有数の経験・実績を持っております。患者さん達の治療に役に立つような結果を出せるように頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

また、今般拝命した職務には、教育があります。大学病院は医学生をはじめとした学生への教育に加え、医師一・二年目に行われる初期研修、また専門医資格の取得を目指す後期研修、更には地域の医師の技能向上などについての貢献も期待されています。より魅力的な専門医研修カリキュラムを提供する他、大学病院、特定機能病院として高度な人材育成ができるように努力するつもりです。

まだまだ未熟な若輩ではありますが、一人でも多くの患者さんに「大学病院にかかって良かった」と感じて頂けるように、精一杯頑張りたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

副病院長 経営・評価担当 星川 広史



この度、経営・評価担当の副病院長を拝命いたしました。8月も終わりに近づいた頃だったでしょうか、病院長が開口一番、先生に経営・評価担当の副病院長をやってほしいんだけど、と言われ唖然としました。現在、社会保険委員長という診療報酬の請求に関する委員会の委員長を務めさせていただいてはおりますが、経営などは全くの素人です。そのあとの健康診断では、普段正常のはずの血圧が160と上昇しており、ココがポイント!血圧管理というのをいただきました。

経営に関する知識はほとんどありませんが、通常の企業では企画部門、マーケティング部門、品質管理部門といったものが存在し、市場の動向などを見据えて経営方針を立て、そして常に品質の向上や安全性といったものを評価しながら成り立っているのかなど漠然と考えていました。医療の世界では、どうやら企画部門というものは国(厚労省)が担っており、各病院の役割はおおむね決まっている、マーケティング部門、あるのかな?品質管理、これは医療安全か?など、病院全体を見つめ直す機会をいただきました。

医療制度や社会環境はこれからもどんどん変わっていくでしょうが、私たち医療に携わる者の役割は、患者さんの(患者さんだけでなく周囲の人々の)体と心をできる限り健やかに保つお手伝いをする、この一点において私たちの役割は変わることはありません。安全で、質の高い医療と経営を両立するために何をすべきか、コミュニケーションを密にして病院スタッフ全体で考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



新任の副院長の挨拶

副病院長 病院再開発・広報担当 日下 隆



私は小児科、特に新生児医療を中心にこれまで診療、研究、教育、そして国際交流を行ってまいりましたが、この度2017年10月より病院再開発整備および広報担当副病院長に任命され、附属病院全体の働きへの貢献が求められ大変緊張しています。地元、香川県の出身者として、また母校(香川医科大学6期生)の出身者として、香川大学医学部附属病院の働きには誇りを持っています。その中で、附属病院がさらに機能的に充実し、高度なそして患者さんの視点に立った、安心できる医療を提供できる場所として、再開発による環境整備、そして本病院の良さを地域の方々に広報していきたいと考えています。

病院再開発整備事業は、2011年度から8年計画で進められています。現在、西病棟と中央診療棟、外来診療棟の改修工事が進められており、再開発整備事業完成予定は1年半後の、2019年3月となっています。広報事業は、オリーブ便り(旧病院ニュース)の編集・発行、香川大学サテライトセミナーとしての医療セミナー『イキイキさぬき健康塾』(丸亀町レッツホールにて毎月一回、日曜午前中)の開催とホームページから配信等を行っています。今後も香川県で最良の医療を提供する唯一の国立大学病院として、病院の様々な働きや長所を解り易く広報したいと考えています。

私自身まだまだ経験不足な点が多いと思いますが、一生懸命、附属病院のために貢献したいと考えておりますので、これまで以上にご協力を宜しくお願い申し上げます。

小児がんは国内で年間2,000-2,500人が発症しており、発症頻度は小児人口10,000人に約1人です。小児がんで多いものは白血病、脳腫瘍、悪性リンパ腫、神経芽腫です。この中で白血病が最も多く年間約800人発症しています。

白血病にはいろいろな種類がありますがその中で急性リンパ性白血病が約75%を占め、残りの大部分は急性骨髄性白血病が占めます。急性リンパ性白血病は小児人口10万人あたり約2.6人の発症頻度で、1-4歳に発症のピークがあります。初期には何となく元気がない、しんどい、足が痛いなど白血病に特徴的な症状でないことが多いです。白血病細胞が増えてくると発熱、顔色不良、出血傾向、リンパ節腫脹などの症状もみられるようになります。臨床症状や血液検査などで白血病が疑われると、骨髄検査を行い診断を行います。

病気の治癒率に一番影響するのは白血病細胞自身の性質のため、早期に診断しても病気の治癒率にはあまり影響はしないと考えられています。治療は主に複数の抗がん剤を組み合わせた化学療法を行います。化学療法の強さは白血病の再発のしやすさの目安を基に決めますが、非常に再発するリスクの高いものでは造血幹細胞移植を併用します。

治療計画は今までに効果があった報告を基にしたものや、臨床試験と呼ばれる今までの治療成績をよりよくするために計画されたものなどが利用されています。全治療期間は約2年間で、そのうち8か月から1年間くらいが入院加療になります。残りは学校や幼稚園/保育園に通いながら外来で治療を行います。一般的な日常生活のイベントが病気の再発には影響しないので、本人の体力に応じた学校生活や日常生活を送ることが可能です。

現在行われている治療で約80%に長期生存が期待できます。長期的にみて使用した化学療法による重篤な影響を残すことは少ないですが、別のがんを発症するリスクが治療を受けてない人に比べて数%上昇することが報告されています。そのため大人になってからも一般的に知られているがんの発症を促すような行動を避けることや一般的な推奨されている成人がん検診はきちんと受けるようにすることが必要です。

香川県総合防災訓練に参加して

救命救急センター

去る9月3日に香川県総合防災訓練が開催されました。年に一回全県を挙げて行う大規模な防災訓練です。四国を含む大規模災害として南海トラフ地震(マグニチュード8~9クラス)が想定され、その発生確率は30年以内で70%程度とされています。当院からもそうした災害に備えて、DAMTと呼ばれる医療チームが毎年参加をしています。

DMAT(Disaster Medical Assistance Team)とは災害時の医療活動を担う専門チームで、大規模災害直後より現地へ入り、救急医療活動や病院支援を行うことを目的としています。先の熊本地震でも当院からDMATチームが派遣され阿蘇周囲で医療活動を行いました。

今年の県防災訓練で特徴的だったのは、ヘリコプターでのDMAT隊員の現地投入訓練です。崖崩れなどで道路が寸断され災害現場へ陸路で行くことが困難な時、上空から医療チームを災害現場へ搬送できれば人の命を救うことにつながります。訓練では当院のDMAT隊員3人が大学病院のヘリポートからヘリコプターに乗り込み、およそ5分後に訓練会場である綾川町総合運動公園上空へ到着、ホイスト降下しました。降下の時は緊張しましたが、ヘリ隊員の指示に従いながら無事に着地できました。

訓練会場までのヘリの中、窓から見る讃岐の様子は平和そのものに見えました。もし訓練でなかったら、そこには火の手や黒煙があがっている景色が広がっているのでしょうか。少し背筋が寒くなるのを感じ、身が引き締まりました。



「外来診療科の移転について」

病院再開発推進室

病院再開発整備で、5月から改修工事に着手していた外来診療エリアが1月に完成しました。外来診療棟の改修計画は大きく4区画に分けて進められており、今回完成したエリアは2区画目に当たり建物全体の約半分が完成したことになります。

今回の完成エリアには、11月27日から、1階に脳神経外科、整形外科、形成外科・美容外科、2階には小児科、小児成育外科が移転しましたので受付や診察室など場所が変更になっています。移転後に空いたエリアは、次の仮設診察室等への改修工事が行われています。

また、外来診療棟の3区画目の工事が1月初旬から着工することに伴い、工事区域の対象となる診療科が仮設診察室等へ移転します。具体的には1階に内科、眼科、2階に皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の受付や診察室などが現在の場所から変更になり1月4日から診療を始めます。

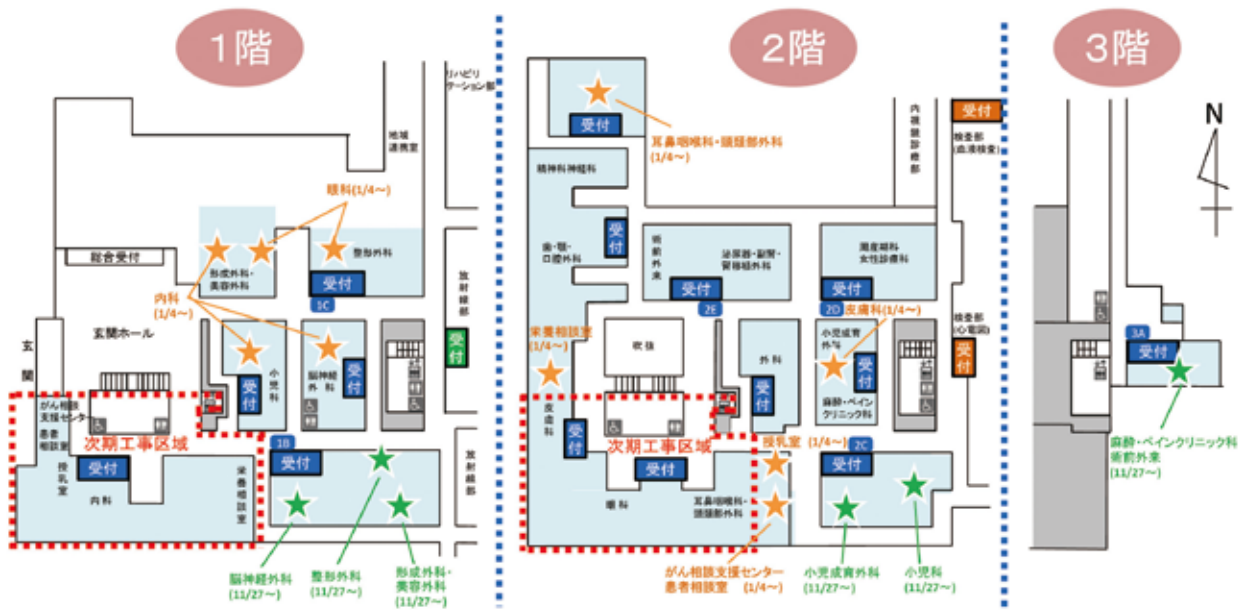
工事期間中は、診療科の位置変更での混乱や、工事騒音等で大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。

11月27日(月)から次の診療科の場所が変わります。

脳神経外科、整形外科、形成外科・美容外科、小児科、小児成育外科、麻酔・ペインクリニック科、術前外来

1月4日(木)から次の診療科等の場所が変わります。

内科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、栄養相談室、がん相談支援センター、患者相談室、授乳室



臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長 医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意がたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H29.12~H30.1月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
12/7 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:食生活を振り返ってみよう! 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
12/10 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「内視鏡でみえる「なごる胃腸の早期がん」	総務課	(087)891-2008
12/21 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:年末年始の過ごし方 歯科衛生士:歯周病は糖尿病の第6の合併症	臨床栄養部	(087)891-2066
H30/1/11 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:今年から始めようダイエット 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
1/18 木	14:00~16:00	西1階カンファレンスルーム	がん患者サロン 「がん治療時に食事をおいしく食べる工夫 ~なにをどう食べたいの?~」	がん相談支援センター	(087)891-2473
1/25 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:お菓子とのつきあい方 理学療法士:なぜ運動は体に良いのか	臨床栄養部	(087)891-2066
1/28 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「人工股関節 ~筋肉を切らない方法を中心に~」	総務課	(087)891-2008

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、石井(外来)、小野(総務)、笹川(放射線)、白神(麻酔)、田川(管理)、田中(看護)、藤原(病棟)、芳地(薬剤)、横井(情報)、横山(経営)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]